

学習院大学

法科大学院

2023

GAKUSHUIN
UNIVERSITY
LAW SCHOOL
2023



令和4年 司法試験結果について

令和4年司法試験においては、本法科大学院から40名が受験し、短答式試験合格者は29名、最終合格者は5名(既修者5名、未修者0名)でした。本法科大学院では、少人数教育と手厚い支援体制によって、令和4年までに222名の司法試験合格者を輩出しております。今後も、本学の教育理念に基づき、より一層基礎力の定着に力を入れ、きめ細やかに指導を行い、さらに多くの優秀な法曹を送り出せるよう教員スタッフ一同尽力してまいります。

	本学合格者数			(参考) 全合格者数
	既修	未修	合計	
令和4年	5	0	5	1,403
令和3年	5	0	5	1,421
令和2年	4	1	5	1,450
令和元年	5	1	6	1,502
平成30年	11	5	16	1,525
平成29年	8	3	11	1,543
平成28年	11	3	14	1,583

少人数制の授業

教員との距離が近く、経験豊富な教員からきめ細やかな指導を受けることができます。夏季および春季休業中には、学力増進プログラムを開催し、学力支援を行っています。

修了後の支援

法務研修生、法務研究生として、授業聴講ができるほか、自習室等を利用することができ、在学中と同じような環境で司法試験に臨むことができます。

「法学入門演習」・「法学演習」

法律専門科目の学修にスムーズに入っていけるよう、未修者・既修者それぞれに向けた導入的な授業を開講しています。

法務研究科長 | メッセージ

学習院大学法科大学院は、基礎からしっかりと法律基本科目を勉強したいと希望する学生に最適な少人数教育を展開しています。

本法科大学院は、定員30名の小規模でありながら、開設以来200名を超える法曹を輩出してきました。ここでは、本法科大学院の特徴を3点挙げることにします。

第1に、充実した教員の存在です。経験豊かな実務家教員と優れた研究実績をあげている研究者教員が、行き届いたカリキュラムの下で教育を行っているほか、弁護士として活躍する修了生から親身な指導を受けることもできます。

第2に、徹底した少人数教育を行っています。教員と

学生との対話型授業を通じて、非常に密度の濃い指導が展開されています。

第3に、勉学にふさわしい環境を整備しています。最新の教育設備などは、在学中はもちろん、修了後も利用可能です。

学習院大学の豊かな伝統の下、真のプロフェッショナルと呼べる法曹を養成します。

学習院大学法科大学院は、基礎からしっかりと法律基本科目を勉強したいと希望する学生に最適な少人数教育を展開しています。



法務研究科長
神前 禎

教員紹介

専任教員



専門分野 憲法 青井 未帆(あおい みほ)教授

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得満期退学。修士(法学)。信州大学経済学部准教授、成城大学法学部准教授を経て、2011年より学習院大学法科大学院教授。日本公法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会に所属。元司法試験審査委員。



専門分野 憲法 尾形 健(おがた たけし)教授

京都大学大学院法学研究科研究指導認定退学博士(法学)。甲南大学法学部助教授、同志社大学法学部・同大学院法学研究科教授等を経て、2021年4月より学習院大学法科大学院教授。日本公法学会、日米法学会、日本社会保障法学会等に所属。元司法試験・予備試験審査委員。



専門分野 行政法 大橋 洋一(おおはし しょういち)教授

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了(法学博士)。九州大学大学院法学研究科教授を経て、2007年より学習院大学法科大学院教授。日本公法学会、日独法学会に所属。元司法試験・予備試験審査委員。



専門分野 民法 大村 敦志(おおむら あつし)教授

東京大学法学部卒業。東京大学法学部教授を経て、2004年より東京大学大学院法学政治学研究科教授。2019年4月より学習院大学法科大学院教授。日本私法学会、日仏法学会、法と教育学会に所属。



専門分野 商法 神作 裕之(かんだく ひろゆき)教授

東京大学法学部卒業。学習院大学法学部教授を経て、2004年より東京大学大学院法学政治学研究科教授。2023年4月より学習院大学法科大学院教授。日本私法学会、日本金融法学会、信託法学会に所属。



専門分野 商法 神田 秀樹(かんだ ひでき)教授

東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科教授を経て、2016年より学習院大学法科大学院教授。



専門分野 民事訴訟法 長谷部 由起子(はせべ ゆきこ)教授

東京大学法学部卒業。成蹊大学法学部教授を経て、1998年より学習院大学法学部教授。2004年より学習院大学法科大学院教授に就任。日本民事訴訟法学会、日本私法学会、金融法学会に所属。



専門分野 刑事訴訟法 安村 勉(やすむら つとむ)教授

上智大学大学院博士後期課程を単位取得満期退学後、沖縄大学助教授、富山大学教授、金沢大学教授、立教大学教授、さらには千葉大学教授を経て、2017年4月より学習院大学法科大学院教授。日本刑法学会会員。元司法試験審査委員。



専門分野 法哲学 若松 良樹(わかまつ よしき)教授

京都大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。京都大学博士(法学)。成城大学法学部教授を経て、2013年4月より学習院大学法科大学院教授。日本法哲学会、日本倫理学会、日米法学会に所属。



専門分野 国際私法 神前 禎(かんだき ただよし)教授

金沢大学法学部助教授、学習院大学法学部助教授、同教授を経て、2004年より学習院大学法科大学院教授。日本私法学会、日本国際法学会、日本国際私法学会に所属。

専任実務家教員



専門分野 民法 稲村 晃伸(いなむら てるあき)教授

東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了。2008年弁護士登録(東京弁護士会)。2023年4月より学習院大学法科大学院教授(実務家教員)。



専門分野 民事訴訟法 川神 裕(かわかみ ゆたか)教授

東京大学法学部卒業。1982年裁判官任官。東京地裁判事、最高裁調査官(行政)、大阪地裁部総括判事、最高裁上席調査官(行政)、東京地裁部総括判事、大津地裁部所長等を経て、2020年東京高裁部総括判事を最後に定年退官。2021年4月より学習院大学法科大学院教授(実務家教員)。



専門分野 民事手続法 篠田 憲明(しのだ のりあき)教授

2000年東京大学法学部卒業(法学士)。2001年弁護士登録。2007年デューク大学ロースクール修士課程修了(LL.M.)、2008年ジョージワシントン大学ロースクール知的財産権法修士課程修了(IP Law LL.M.)。2008年ニューヨーク州弁護士登録、同年カリフォルニア州弁護士登録。2023年4月より学習院大学法科大学院教授(実務家教員)。



専門分野 刑事法 吉野 秀保(よしの ひでお)教授

中央大学法学部卒業。2006年検事任官。各地の地検検事として勤務し、捜査・公判を担当。2022年4月から法務省より学習院大学法科大学院に派遣(実務家教員)。

特別招聘教授

栃木 力(とちぎ つとむ)元判事・弁護士
五條堀 岳史(ごじょうぼり たけし)弁護士
吉田 京子(よしだ きょうこ)弁護士

奥田 誠(おくだ まこと)弁護士
高木 弘明(たかぎ ひろあき)弁護士

岡本 裕明(おかもと ひろあき)弁護士
山田 和彦(やまだ かつひこ)弁護士

兼任教員



専門分野 行政法 櫻井 敬子(さくらい けいこ)教授

東京大学大学院法学政治学研究所博士課程修了(博士(法学))。2003年より学習院大学教授。日本公法学会、日本財政法学会、警察政策学会に所属。



専門分野 行政法 常岡 孝好(つねおか たかよし)教授

東京大学大学院法学政治学研究所博士課程単位取得満期退学。1998年より学習院大学教授。日本公法学会、日米法学会に所属。情報公開・個人情報保護審査会委員、神奈川県行政不服審査会委員なども務める。



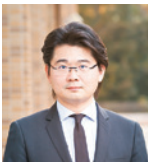
専門分野 民法 水野 謙(みずの けん)教授

北海道大学大学院法学研究科博士後期課程中途退学(博士(法学))。青山学院大学法学部助教授を経て、2002年より学習院大学法学部教授。日本私法学会に所属。元司法試験考査委員。



専門分野 民法 山下 純司(やました よしかず)教授

東京大学法学部卒業。1996年より、東京大学大学院法学政治学研究所助手。1999年より、学習院大学法学部専任講師。2001年より、学習院大学法学部助教授。2008年より、学習院大学法学部教授。日本私法学会、信託法学会、法と教育学会に所属。国家公務員総合職試験委員。司法試験予備試験考査委員。



専門分野 民法 竹中 悟人(たけなか さとる)教授

東京大学大学院法学政治学研究所博士課程修了(博士(法学))。2008年より学習院大学法学部准教授。日本私法学会、日仏法学会に所属。主な論文: <La theorie de la cause vue du Japon> (Droit japonais, droit francais, Quel dialogue, Schulthess, 2014)、[動機の表示] (法学教室454号、有斐閣、2018)。



専門分野 商法 小塚 荘一郎(こづか そういちろう)教授

東京大学法学部卒業。東京大学より博士(法学)の学位取得。千葉大学法経学部助教授、上智大学法学部助教授、同法科大学院教授を経て、2010年より学習院大学法学部教授。国内では、日本私法学会、日本海法学会等に所属。国際的には、私法統一国際協会コレスポネント、比較法国際アカデミー準会員。



専門分野 民事訴訟法 佐瀬 裕史(させ ひろし)教授

東京大学法学部卒業。学習院大学法学部専任講師、准教授を経て、2016年より教授。



専門分野 刑法 鎮目 征樹(しずめ もとき)教授

東京大学大学院法学政治学研究所修士課程修了(修士(法学))、同博士課程単位取得満期退学。筑波大学社会科学系専任講師を経て、2004年より学習院大学法学部助教授、2009年より同教授。日本刑法学会に所属。



専門分野 英米法 小山田 朋子(おやまだ ともこ)教授

東京大学大学院法学政治学研究所博士課程修了。博士(法学)。日米法学会、日本比較法学会、医事法学会に所属。



専門分野 労働法 橋本 陽子(はしもと ようこ)教授

東京大学大学院法学政治学研究所修士課程修了、同大学法学部助手を経て、2000年、学習院大学法学部助教授、2006年より同教授。日本労働法学会に所属。



専門分野 租税法 長戸 貴之(ながと たかゆき)教授

東京大学大学院法学政治学研究所法曹養成専攻修了(法務博士)。同研究科助教、学習院大学法学部准教授を経て、2022年より同教授。租税法学会に所属。



専門分野 経済法 大久保 直樹(おおくぼ なおき)教授

2003年4月から2004年3月まで知的財産研究所特別研究員、2003年12月東京大学大学院法学政治学研究所博士課程修了(博士(法学))、2005年4月より学習院大学法学部に勤務。日本経済法学会所属。



専門分野 知的財産法 横山 久芳(よこやま ひさよし)教授

東京大学大学院法学政治学研究所修士課程修了。東京大学法学部助手を経て、2002年、学習院大学法学部助教授、2009年より同教授。工業所有権法学会、著作権法学会に所属。



専門分野 国際法 阿部 克則(あべ よしのり)教授

東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修士課程修了。ケンブリッジ大学法科大学院修士課程(LL.M.)修了。千葉大学法経学部助教授、学習院大学法学部助教授等を経て、2008年より学習院大学法学部教授。国際法学会、世界法学会、日本国際経済法学会に所属。主要研究領域は国際経済法。

非常勤講師

橋爪 隆(はしづめ たかし)東京大学教授 西貝 吉晃(にしがい よしあき)千葉大学准教授

赤井 耕多(あかい こうた)弁護士 今井 悠(いまい ゆう)弁護士 小暮 駿生(こくれ はやお)弁護士

1 学習院大学法曹コースの開始

本法科大学院と学習院大学法学部との間で締結された法曹養成連携協定が文部科学大臣により認定されました。これにより、「学習院大学法学科法曹コース」が令和5年4月1日に設置されました。

法曹コースとは、法科大学院との連携により、最短5年間（学部3年+法科大学院2年）で司法試験を受験し合格を目指すことを可能とする制度です。

この制度は、中央教育審議会の法科大学院特別委員会の提言^{※1}を受け、令和元年6月成立の法科大学院関連法において創設されたもので、法曹を志望する学生の時間的・経済的負担を大きく軽減し、優れた資質・能力を有する法曹志望者を増やし、専門的な法的知識を活用して社会に貢献できる法曹を安定的に輩出すること等を目的としています。

学習院大学法学部に新たに設置される法曹コースは、本法科大学院既修者コースとの一貫教育を可能とし、法科大学院1年次に相当する基礎的な法律知識や学力などを学部段階で早期に修得することができます。

学習院の環境や教員に慣れ親しんだ学生を法学部と法科大学院で一貫して教育できることは、学生にとっても法科大学院にとっても素敵なことですし、プロセスとしての法曹養成制度の有効性を存分に発揮できるポイントとなると思います。

なお、学習院大学法曹コースは、令和5年度以降入学の法学部生が対象で、2年次進級直前または3年次進級直前の3月に登録することになります。

本法科大学院は、西南学院大学法学部との間においても法曹養成連携協定を締結しておりますので、学習院大学法学部との間で法曹養成連携協定を締結したことで、さらに多様な人材の育成をすることが可能になります。

2 法学未修者教育の充実

「法曹コース3+2」の制度は法学既修者を前提としたものであるため、法曹志望者の多様性の確保という観点からは、



改めて法学未修者教育の充実が求められています^{※2}。

未修者教育の充実策として、中央教育審議会は修了生である弁護士等による学習支援の促進を提言しています。令和3年に新設した「法学入門演習1」では、従来行われてきた修了生弁護士等による学修支援を正規カリキュラム化しました。さらに、「法学入門講義」「法学入門演習2」といった科目により、法律に関する基礎的な考え方や法文書の作成の基礎を学ぶことで、総合的に基礎知識の定着ができるよう講義内容を考えています。

本法科大学院の未修者コースの定員は6名と小規模ですが、小規模校であることから、教員はそれぞれの学生に関する情報を把握することが容易となっており、受講者から疑問点やニーズを聞き取りながら、講義を進めることができます。本法科大学院は、このような強みを活かし、機動的により良い教育を提供する試みを続けてきました。

多様な経歴や能力を活かし、幅広い知見を有する法律人材の輩出は、法科大学院制度にとって本質的な使命です。引き続き多様なバックグラウンドを持つ意欲的な学生を法曹として社会に供給できるよう、未修者教育を充実させていく所存です。

※1 平成26年10月9日付け中央教育審議会大学分科会法科大学院特別委員会「法科大学院教育の抜本的かつ総合的な改善・充実方策について（提言）」

※2 令和3年2月3日付け中央教育審議会大学分科会法科大学院等特別委員会「法学未修者教育の充実について 第10期の議論のまとめ」

弁護士に必要なコミュニケーション力が磨かれました。

弁護士になろうと思ったのは高校生の時でした。学習院女子高等科で将来のことを考えたときに、むしろ苦手な分野に進んだら面白いのではないかと考え、法学部に進学して弁護士になることを決めました。

司法試験には、法科大学院を修了して4年目で合格をしました。修了後も法務研究生として法科大学院の施設を使わせてもらい、先輩や後輩とゼミを組んで勉強できる環境だったのはありがたかったです。その時のゼミの仲間は、時期は違いますが皆司法試験に合格して今でも繋がりがあります。

司法試験は予備試験経由でも受験できますが、法律家を目指す場合、司法試験合格は通過点でしかなく、むしろ合格後が果てしなく長いものです。だからこそ、法科大学院進学は、司法試験合格後の法律家としての人生をイメージして考えるのが良いと思います。

弁護士の仕事というのは、とにかく人との仕事です。依頼をしてくる方は本当に様々な方がいます。そういった依頼人の方と一対一で向き合っ、裁判となれば数年にわたって関係性を築き、理解し合う必要があります。コミュニケーション能力や健全なメンタルを養うことはもちろん、依頼人との関係性に悩むとき、つらいときに、相談できる様々なコミュニティを作っておくことがとても大事です。もちろん、司法

試験合格後の司法修習や事務所でもコミュニティは広がっていきませんが、法曹になる前の大変な時期をともに過ごした仲間は特別なものがあります。

法科大学院の授業では、多くの講義で発言する機会があります。発言に対して、準備不足で、皆の前で教授に怒られてしまい恥ずかしい思いをしたりすることもあるのですが、まだ、他人の人生に責任を負わなくてよい学生のうちに、恥ずかしいと思うような経験をすることも含め、気心の知れた仲間たちの中で、議論やコミュニケーションの訓練をすることができるのは、一人だけの勉強では経験することができない法科大学院の大きなメリットだと思います。

私は、同じ学年の仲間に恵まれ、自主ゼミや、演習形式の授業で、様々な立場から、自由に意見を出し合ってディスカッションしたことが記憶に残っています。論理的に話を組み立てる、相手を説得する、人に説明をするという訓練を繰り返し行う経験は、実務の場でも使うコミュニケーション能力の基盤になっています。また、面倒見の良い先輩が多く、現場を見てみたいと言えば、事務所の見学をさせてくれたり、勉強ではゼミを開いてくれたり、就職の相談に乗ってくれたり、困っているときに手を差し伸べてくれました。学習院大学法科大学院はそのようなコミュニティがしっかりした法科大学院だと思っています。



齋木 美帆 弁護士

(ネクスパート法律事務所 学習院女子中・高等科卒業、学習院大学法学部法学科卒業、学習院大学法科大学院修了)

未修者の1年

法曹としての基本的な考え方が徹底的に身につきました。

法律に興味を持ちはじめたのは、法学部に進学していた兄の話聞いたことがきっかけです。そこから自分で参考書を読むうちに、徐々に法曹にあこがれを抱くようになりました。また、法律を学ぶと社会の動きがよくわかるようになるので、純粋に法律の勉強が好きでした。そのことも、法曹を目指した理由のひとつです。

未修者コースの1年次の授業では、立法経緯や趣旨といった教養的な話も多く、条文や判例を理解するための前提や、法曹として働くための大枠となる考え方も身につきました。また、納得いくまで受講生全員で質問を重ね、互いに理解を深め合ったことも印象的です。少人数制の法科大学院の良さを存分に味わった1年間でした。

未修者にとって大変なのは、民法や刑法の基礎知識が十分でないまま、民事訴訟法や刑事訴訟法の授業が同時に進んでいくことです。ただ、1年次の講座を担当される先生方は、他科目の学習状況も踏まえて基礎から丁寧に教えてくださいます。知識が不足していると感じてもめげずに、わからないことはどんどん質問してみてください。そして、科目を超えて横断的に法律を理解するように学習していくことをおすすめします。



戒能 千華子
(2021年度法学未修者コース入学)

1年次の履修科目

新1学期

	月	火	水	木	金	土
1		憲法入門1				
2			民法入門2	民法入門演習1		
3			民法入門1			
4	民事訴訟法入門1		刑法入門1			
5		法学入門講義				
6				法学入門演習1		

新2学期

	月	火	水	木	金	土
1		憲法入門2	刑法入門2		民法入門3	
2		民法入門演習2	法学入門演習2			
3					刑事訴訟法入門2	
4	民事訴訟法入門2			刑事訴訟法入門1		
5						
6						



> おすすめの授業は？

「民法入門演習」。重要な「判例百選」の事案をじっくり理解できます。

> 1日の勉強時間は？

特に決めていませんが、短時間でも毎日、時間を作っています。

> アルバイトはしていますか？

1年次の夏季休暇中、2か月間だけしていました。

> ストレス解消法は？

お昼寝したり、音楽を聴いたりすることです。

既修者の1年

授業を大切にし、学生同士の振り返りで知識が定着しました。

私が法曹を目指す理由は、弁護士という職業に魅力を感じているからです。法律の専門家として一定数の仕事があり、分野や方針のある程度自分で選べるため、仕事を続けていくうえで励みになるのでは、と考えています。もうひとつの理由は、少しでも誰かの役に立つ生き方がしたいからです。これまで様々な人に支えられてきたので、今度は自分が信頼される弁護士になり、依頼者の助けになりたいと思っています。

私は既修者ですが、入学前の知識だけでは理解しきれない授業の内容も多くありました。しかし、根気強く理解に努め、先生方の丁寧な指導を受けていく中で、自分の成長を実感できました。また、同期の学生たちとの授業の振り返りを通じて、より知識が整理されたように思います。同時に、話し合いを通じて色々な考え方を知り、自分の短所や癖を自覚できたことも印象に残っています。

先生方の授業をしっかりと理解するには、これまでの知識に加えて、多くの予習・復習を繰り返す必要があります。ただ、授業の内容や先生方のお話には、司法試験の合格に必要なものがたくさん詰まっています。どうぞ焦らずに、授業を楽しんでみてください。



黒田 正義
(2022年度法学既修者コース入学)

1年次の履修科目

新1学期

	月	火	水	木	金	土
1						
2		民法1	民法2	民事訴訟法1		行政法1
3			租税法1		刑事訴訟法1	
4	商法1			憲法1		
5		刑法1		法学演習(聴講)		
6						

新2学期

	月	火	水	木	金	土
1		行政法2	憲法2			
2	刑法2		租税法2			
3		民事訴訟法2				
4	民法3		刑事訴訟法2	商法2		
5					民法4	
6						



> おすすめの授業は？

判例が次々と繋がっていく「刑事訴訟法」です。

> 1日の勉強時間は？

8時間程度を目安にしています。

> アルバイトはしていますか？

入学以後はしていません。

> ストレス解消法は？

睡眠や軽い運動などで解消しています。

> 法学関連でおすすめのテキストやウェブは？

法務省の司法試験関連のウェブページをよく見えています。

入試情報

※記載内容は、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言、自粛要請、その他社会状況により、変更される可能性があります。
最新情報は、本法科大学院ホームページをご確認ください。

1. 入試概要

令和6年度入試変更点

1. 入試区分の既修者コース（特待）及び既修者コース（ジャンプアップ）を廃止し、既修者コース（一般）に統合しました。
特別選抜を除き、全日程で受験可能となります。

※未修者コースの成績優秀者は1年間、既修者コースの成績優秀者は1年間または2年間の授業料免除となります。

2. 既修・未修コースとも全日程で面接試験を実施します。

※多様な背景を持つ人材を、より丁寧に審査をします。

募集定員：30名（既修者コース 24名、未修者コース 6名）

令和6（2024）年度入試日程：

日程		A日程	B日程	C日程	D日程	
入試区分	法学未修者コース	一般 成績優秀者は1年間授業料減免	2名	2名	若干名	若干名
	法学既修者コース	一般 成績優秀者は1年間 または2年間授業料減免	6名	6名	6名	5名
		特別選抜 (5年一貫型教育選抜) 成績優秀者は1年間授業料減免	—	1名	—	—
出願期間（郵送に限定、締切日必着）		7/20～7/31	9/4～9/13	11/6～11/15	2/8～2/13	
筆記・面接試験		8/25(金)	9/30(土)	12/2日(土)	2/24(土)	
合格発表		9/11(月)	10/16(月)	12/18(月)	3/13(水)	
併願		可 既修一般・未修一般	可 既修一般・未修一般	可 既修一般・未修一般	可 既修一般・未修一般	

*選考方法 【既修者コース】

一般 書類審査・筆記試験（憲法・民法・刑法・刑事訴訟法・民事訴訟法）・面接
特別選抜 書類審査・面接

【未修者コース】

一般 書類審査・小論文・面接

*飛び入学および早期卒業対象者は全日程で受験可

*同年度内に実施の入試に2回以上出願すると2回目以降が割引となります。初回受験は35,000円、2回目以降は10,000円となります。
同日実施の併願も2回にカウントし、片方の受験料が10,000円となります。

入試要項・願書：本法科大学院ホームページからダウンロードができます。

入試結果・過去問題：本法科大学院ホームページで公開しています。

2. 説明会日程

本法科大学院の特色、入試内容、カリキュラム、教員、奨学金等について説明いたします。是非ご参加ください。

日時	会場	備考
7月22日(土) 13:00～	学習院大学西2号館502教室	入試問題解説(民法)・修了生体験談
9月9日(土) 13:00～	学習院大学西2号館502教室	教育内容等説明
11月11日(土) 13:00～	学習院大学西2号館502教室	入試問題解説(憲法)

*詳細は本法科大学院ホームページにてお知らせします。

3. 授業見学

本学への受験を考えている方を対象に、入学後の学修のイメージをつかんでいただく機会として、実際に行われている授業の見学を許可しています。

- ① 見学できる科目 3科目まで
- ② 見学期間 第1学期：6月5日(月)～6月17日(土) [対象：学習院大学及び西南学院大学在学者]
第2学期：11月6日(月)～11月18日(土) [対象：社会人及び大学1年生以上]
- ③ 申込方法等 ホームページに見学実施要項を掲載します。
- ④ 備考 希望者人数等によりご希望に沿えない場合があります。ご了承ください。

学習院大学 法科大学院ガイド 2023年度

発行日：2023年5月1日

発行所：学習院大学法科大学院

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1



学習院大学法科大学院HP